

弘教寺



田中鐵郎さんを偲ぶ

弘教寺住職 中山英昭

6月元総代の田中鐵郎さんが九十四歳で往生されました。念仏者であったご両親のお育てを受けて、弟の岩男さんと共に聞法に専念され、また役員として弘教寺の発展にご貢献下さいました。

平成9年9月に弘教寺仏教壮年会が発足して、今年で二十五年になります。発会日に会員の皆さんと祝杯を傾けようと、当時なかなか手に入らなかった「越乃寒梅」「雪中梅」の銘酒を探しに田中さんと共に出かけたことは懐かしい思い出です。当時、この辺の酒の量販店で一万八百円しておりました。その頃酒を飲まなかった私は製造の地新潟県に行けばいくらでも手に入ると思っておりました。県内を巡り、酒屋さんの2銘柄の看板が有れば立ち寄り、聞いて回りました。しかし、どこにも見つからず、上越市の「カウボーイ」に行けばあると教えられ、行ってみれば山ほどの銘酒が陳列され、目的の2銘柄もありました。この店も量販店で一本九千八百円でした。新潟まで出向き、一日がかりで探して一千円の違いしかなく、ショックを受けました。今は田中さんとの楽しい思い出です。

第52号

発行所

〒370-0131
伊勢崎市境米岡二七九-二
浄土真宗本願寺派弘教寺
寺報編集部
電話 0270(七四)0573



寺のQR

田中さんのことを書かせて頂く上で忘れてならないことは、弘教寺の「子どものつどい」のために作って頂いた紙芝居の数々です。仏教説話を題材にした多くの作品を残して下さいました。弘教寺にとって大切な財産です。

当時「子どものつどい」のうちに本山で制作されている紙芝居を使っておりましたが、作品の数に限りがあり、小さいサイズしかないので、大きな紙芝居を制作することになりました。坊守が下絵を描き、田中さんが得意とする顔料で絵を仕上げていく作業が続き、幾つもの作品が出来上がりました。子供が見て喜ぶような素晴らしい作品の数々は貴重な教材となりました。只々感謝の思いです。

作品の一つ『ミテゴザル』は田中さんの若き日に体験した戦争の記憶を描いたものでした。



終戦前に十七歳で、特攻兵を志願し、鹿児島に向い終戦を迎えるまでの体験談が基になった作品です。すぐそばの戦友が爆撃で亡くなっていくことや帰省列車で広島を通過する時のことなど、体験した田中さんでしか描けない貴重な反戦の資料になりました。

この作品で印象に残った話があります。特攻の出陣を控えた田中さんに上官から両親の写真を取り寄せるように命じられたそうです。早速手紙でそのことを父親に伝えると、親元から届いたのは『阿弥陀さまのお掛け軸』だったそうです。

お念仏の教えに生きたご両親にとって「あなたの本当の親とは阿弥陀さまなのです」ということを伝えたかったのでしょう。ご両親の念仏者としてのゆるぎない心情が垣間見られた逸話です。

田中鐵郎さんの口癖は「おやじたちのようなことを俺は出来ない」でした。でも、鐵郎さんにしても弟の岩男さんにしてもよく聴聞の場に座して、お念仏の教えを大事にして下さっています。

「薫習(くんじゅう)」という言葉があります。お香は知らず知らずのうちに身に染み込み自分では分からなくても香るものです。自分では同じようなことはできないと言われておりましたが、ちゃんと歩みを同じくしているように思います。有難いことと只々感謝の思いです。

道綽禪師の「前(さき)に生まれんものは後を導き、後に生まれん人は前を訪(とぶら)へ」という有名なご文があります。お念仏を大切にしてきた方々は次の代に大切なものを残しておられます。

「導き」とは念仏の教えに生きた方々の生きざまのように思えてならないのです。有難いことです。南無阿弥陀仏 合掌

群馬組仏婦総会、通常開催！

6月14日、群馬組仏婦連盟第25回総会並びに研修会が弘教寺を会処に開催されました。コロナ禍の1年目は中止、2年目は役員だけの参加で開催。今回は、コロナ感染症対策の下、人数制限なしで県下10ヶ寺から49名が参加しました。ここかしこに久しぶりの再会を喜ぶ婦人会員の姿が見られました。

婦人会を結成している寺は、弘教寺（伊勢崎）、重恩寺（桐生）、西蓮寺（藤岡）、覚法寺（高崎）、清光寺（前橋）の5ヶ寺です。光清寺（沼田）、敬西寺（高崎）、清照寺（安中）、西福寺（みどり）、蓮照寺（富岡）は婦人会がありませんが、全10ヶ寺が同じように運営委員を出し協力して活動を進めています。

「讃仏偈」のお勤めの後、西蓮寺の鈴木由美子会長、群馬組の仏婦担当田中敬子光清寺住職のご挨拶に続き、総会が行われました。今後もコロナの状況を見ながら協力して活動



していくことが確認され無事終了しました。

研修会は、ご講師多摩組 覚證寺のご住職細川真彦師による記念講演「お寺と地域でやってみた！子ども食堂の一例」でした。細川先生は、にこやかにお話しくださいました。



活動の発端は、学

習支援をしていた中学生たちに食事を通じて普通の生活体験の機会を作れたらと思い立ったことでした。市の福祉コーディネーターの方に相談し社会福祉協議会、健全育成、民生委員、地域の子どもたちとかかわる大人たちに声をかけ、2016年4月、月2回子ども100円大人300円の「子ども食堂」が始まりました。「食堂」という看板と有料であることで子供達も堂々と来られると考えました。参加人数は年々増え、最大120人。様々な背景を持つ子供達が、食事の合間に勉強したり遊んだり、食べに来るといふより遊びに来ている感覚で集まって来ます。コロナ禍では、公式LINEを活用しお弁当などの配布を行う中で、自然と周囲から弁当の協力、食材支援、保護者の手助けも受けるようになってきました。

細川先生の活動の基には「できる人ができることをできる時に、おたがいさまとさせていただく」という『ご恩報謝』の心があると感じさせていただきました。

有難い思いで閉会式となりました。合掌

（坊守）

※当日ご協力いただいたダーナ募金は、44,302円でした。6月27日教区仏婦連盟へ送金しました。有難うございました。

仏教婦人会総会報告

ワクチン接種のお陰か感染者も少数になった5月20日に、婦人会総会を開催いたしました。ご住職さまのご挨拶、前年度決算報告、班編成と続き、皆勤賞・精勤賞は8名で記念品が贈呈されました。今回も会食をなしにして、手作りの五目おこわ、お茶菓子をお土産にして、総会は無事終了できました。皆さまの笑顔がとっても優しかったです。阿弥陀さまに感謝の気持ちをお伝えして帰路につきました。

合掌（泉昌子）

仏教壮年会総会報告

3年目となるコロナ禍の中での壮年会総会は、5月29日に21名の出席で開催されました。開催に先立ち中山大悟師が「親鸞聖人のご生涯」の講題でお話されました。

総会は式次第に従い、ご住職の挨拶の後、皆勤賞の発表があり、14名の方が表彰され、ご住職から記念品が贈呈されました。続いて、



前年度決算報告、令和4年度行事計画、そして、10月に予定される壮年会結成25周年記念式典の日程についてと進みました。今年こそはコロナが収束し日常生活に戻るよう願っております。（根岸定明）



開催日決定

十月二十九日（土）

十三時半 記念式典

十四時 記念講演

武蔵野大学元教授

山崎龍明師

《弘教寺仏教婦人会》

昭和47年6月に結成され今年で50周年をむかえました。毎月一回の例会を通して仏法の聴聞を大切に、いろいろなサークル活動も実施しております。楽しい会になるようみなさんが努力しております。

《弘教寺仏教壮年会》



発会記念

平成9年9月に結成され今年で25周年をむかえました。隔月で年6回の例会を中心にみ教えを学んでおります。毎回藤岡市西蓮寺ご住職艸香雄道師を講師に迎えて、『正信念仏偈』『歎異抄』の購読を通してみ教えの学びを深めております。婦人会同様いろいろなサークル活動を通して楽しく学ぶ会となるようにみなさんが努力しております。

(住職)



発会記念

木曜会報告（六）『七高僧の教え』

今回は第五祖の善導大師です。613年に中国で大師は生まれたと伝えられています。大師の生まれる30年程前から中国の各地で『観經』（『観無量寿經』）の講義がさかに行われておりました。それは聖道門の諸師方により宗派を問わず、自力の見方で『観經』を解釈するものでした。

このような背景の中で僧侶となられた大師は、『観經』の研究と実践の道場となつていく悟真寺で、聖道門の立場から修業に励まれます。しかし、聖道門の修業を積んだ菩薩・聖者を対象とした教えに満足がでず、自分の進むべき道を求めて旅をされます。そして大師が26歳のころに、山西省の石壁の玄中寺で道綽禪師に出遇われました。道綽禪師の教えは聖道門の教えと違って、「凡夫が本願力によって阿弥陀仏の浄土に往生できる」というもので、求める教えに遇われた大師は、道綽禪師に師事されます。

道綽禪師が往生の後、大師は著作活動に努められ、その教えを『観經疏』に説かれています。その書を通して『観經』の自力・聖道の見方をただされ、阿弥陀如来の願力によって救われていく、罪悪深重の凡夫のための教えであると明らかにされたのです。

親鸞聖人は善導大師を『正信偈』で「善導独明仏正意」と讃えております。

合掌

(橋本勝)

参考文献『はじめて学ぶ七高僧』黒田覚忍著

サークル紹介「マージャンの会」

憩いの部屋をお借りして毎月第一火曜日に開催しています。

平成25年4月より

①ボケ防止の一環

②脳を活性化させる

③仲間とのコミュニケーション

④楽しい一日のひと時を過ごす

すを目的にスタートし、

今年で10年目になります。

85歳の先輩から、今年会社を定年退職した人など15名の会員中、例会日の予定の有無で12名が集まり3卓でゲームを楽しみます。

成績は年度ごとに集計し、毎年上位3名にご住職より記念品が贈呈されます。

開始時間前に集合した人達が、野球の大谷選手の活躍やコロナの感染状況など、情報交換に話が弾みます。12時30分より半チャンを4回行います。ゲーム中は飲まない（アルコール）喫わない（タバコ）を徹底しますが坊主さんのご好意で中間頃に、旨いコーヒート新鮮な果物をいただき感謝です。

10年の間には多少の会員の入退会がありました。今後も健康に留意し、所期の目的を達成していきたいと思っております。

(伊部芳夫)



真悟の京都日記（16）

早いもので、私が京都に来てからもう六年目に突入し、中央仏教学院二年目にして、新入生に対し勤行の指導をする立場となりました。私にとって、誰かに何かを本格的に教えていくというのは初めての経験で、まだ前期が終わったばかりではありますがかなりの疲労感を感じています。

今の私は後輩に勤行を教えています。最終的にはご門徒の皆様にお伝えすることが求められます。ただ、それは学校の教師と生徒の関係で行われる「教える」とは違います。浄土真宗には『自信教人信』という言葉があります。自分自身がそのみ教えを信じ、それを人にも信じさせよという意味です。

これは人に無理やり教えて信じさせろという強制的言葉ではありません。「このような教えがあり、私自身がこのように拠り所としていますという姿をもって、人に信じさせよ」という意味の言葉です。ですから、自身の拠り所を示し、皆様とともにお念仏を申す姿こそが僧侶に求められることだと考えております。

皆様にもそのような姿を見せられるように、また、群馬に帰って新たなことを皆様から学べることを楽しみに、残り

少なくなくなった京都での勉強の毎日をごささしていただけようと思ひます

合掌



郷土のこぼれ話①：甘酒ばあさん

後世に遺したい歴史的遺産や文化などは、身近な所に何気なく存在します。

「あれは何？」というものに目を向けてみましょう。



弘教寺から徒歩5分、境東小学校の南に大きな「姥石」（市指定重要文化財）が祀られ、「甘酒ばあさん」の伝説が残っています。

昔、新田義貞が鎌倉の北条幕府を攻めに出兵し利根川を渡る際、軍勢を休ませた。この時、一人の老婆が甘酒を振舞っていたが、誤って武将大館宗氏の家来の馬に蹴られ死んでしまった。その後供養したところ、老婆は石に化した。石の裏側の丸い穴は馬に蹴られた傷跡だ」という伝説です。

昭和初期頃には、百日咳に利くと「姥石」に願掛けをして、お礼に竹筒2本の甘酒を供えたり、縁日もあつたそうです。

この一帯は、北米岡遺跡といい、縄文・弥生時代の住居跡や土器や岩版、矢じりも発掘されています。住職は、子どもの頃集めた縄文土器や石器を今も保管しています。また、甘酒ばあさんは矢じりを作る工場でお茶出しをしていた老婆だったとも伝わっています。考古学的には、「姥石」は、磐座という古代の祭りの時の神座（神の宿る場所）ではなかったかといわれています。

伝説と遺跡の関わりが面白いですね。（坊守）

参考文献 『境風土記』

編集後記

今号では「親鸞聖人の生涯」が掲載された。聖人が得度されたという青蓮院には修学旅行の引率で何度か訪れたことがある。ここではいつも「大切な五つの心」についてお話をしていた。◆「はい」という素直な心 ◆「すみません」という反省の心 ◆「おかげさまで」という謙譲の心 ◆「ささせていただきます」という奉仕の心 ◆「ありがとうございます」という感謝の心 当時を懐かしく思い返し、改めて今の自身を見つめ直してみた。（栗原政廣）

◆ 行事予定 ◆ 令和4年 8月～ 令和4年 11月

月別	弘教寺の行事予定		教区・群馬組の行事予定	
8月	15日	盂蘭盆会法要		
	25日	仏婦例会		
9月	11日	仏壮例会	18日	千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要
			20日～26日	秋彼岸
	29日	仏婦例会		
10月				
	21日	仏婦例会		
	24日	弘教寺ゴルフコンペ		
	29日	仏婦50周年、仏壮25周年記念式典		
11月				
	13日	仏壮例会	11日～16日	築地本願寺報恩講
	16日	仏婦例会		